

S 状況 & ● i 具体案

- ◆ 仕事量の不足:
日本企業も、世界企業も、製造加工サービスは東南アジアに集中。“安価 かつ 高品質”な東南アジア地区に集中。
- ◆ 技術者の不足:
熟練の技術を必要とする仕事、その「ノウハウ」は「従来から伝授がされにくい」。
“見て覚えろ”という職人の保守の習慣・血洗いや清掃などの修行期間を設け、なかなか教えない習慣もある。
仕事自体が派手さの無い「地道な作業」であれば新卒社員は入社しにくい、ゆえに益々「コスト高」となりやすい。
- ◆ 予算が付かない:
各地域では「高い技術仕事は高いコスト」のため、長期予算もつきにくく、予定もつきにくい。
様々な分野において、業務の発注量の長期的な増加の見込みがあれば、それが唯一、熟練者が育つ仕組みを作る。
「地方の古文書の崩壊」の分野も、それ防ぐための予算化計画が無い場合、技術者の不足が解決ができない。
- ◆ 低価格化:
電子入札の規約において「下請け禁止の業務」と記載されているにも関わらず、違反する大企業の落札が有る。
「伝票通しのみで営業成績を上げよう」とする習慣が無くならない。
下請け禁止の違反罰則の強化も急がれる。(職人を抱える中小企業側は搾取される立場) 技術の実力者を直接育てて抱える中小企業の成長を「阻害する仕組み」が存在する。
- ◆ 予算化を急ぐ:
★「長期の予算化」が必要不可欠。短年度のみ予算では、長期的にみた人材教育に結びつかない。
★「働かない理由」の存在。高齢者・主婦等において「働けるにも関わらず働かない理由」を聞き出しての各具体案。
★「自己の都合」・・・子育て・親族の介護 等で働けない(在宅仕事が多くあれば働ける・・・との希望あり)
★「従来の規制」・・・【働くと“損”】年金減額制度・最低基本賃金制度・扶養控除制度等の各規約があり、それを遵守すると、世界の視点からみた「仕事を発注する側」、そして「受注する側」、双方の不都合に合う。 状況
- i 具体案 “別案C 国内外から受注” 等、具体案を考える。
- ◆ 高齢者比率の急増:
60歳(定年退職)以上の高齢者人口比率が年々上昇。働きたい人材への職場の提供の準備が不足。
クールジャパンの根幹(手先が器用・コツコツと真面目に仕事する人が比較的多い)
- ◆ 老後の仕事: 身体的精神的に簡易な仕事が可能な場合、仕事の環境さえ整えることができれば「社会貢献の継続 兼 老化防止対策 兼 老後の安心」し合える仲間と巡り合い、より充実した時間を過ごす事が可能とできる。
- ◆ 外貨の獲得:
高齢者(例えば:古文書補修者)のプロ化・熟練工が可能となれば、内需拡大から ゆくゆく「外貨の獲得」に繋げる事ができる。技術者集団が成れば熟練工がネズミ算式に増える仕組みの基礎となる。他、各分野においても技能養成の円滑な伝授が整い、規則の一部見直しが整えば「海外からの受託」が可能とできる。しかし現時点では不可能。 状況

◆ ボランティアでは追付かない:

高齢者などの一部はボランティア活動により、「補修」と「撮影」を展開している地域もあるが、「古文書の数量」に適応できてはいない。補修とデジカメ撮影の**予算がほとんど無く、多くが放ったらかし状態**。 状況

◆ 専門技能の伝授は困難:

専門会社が所有する技能は、各企業が永年培ってきたノウハウ・技術であり、それらが「飯のタネ」として商いで差別化して生計を立てている。好んで全ての**技能を公開する会社は皆無**にちかい。技能の公開を実行すれば「古文書救済会」と「指導にあたる業者」との「仕事の奪い合い」。または「価格のたたき合い」につながる。プロのある企業が、それらを無視して「技能を You Tube 等で公開・指導」をさせると、**既存企業の業態が成り立たず多くが廃業**にむかう事となり得ない。

・「**長期にわたる予算化**」(短期では職人化が成立しない)

・「**競業しにくい新しいルール**」の実現が必要不可欠である。しかしその「傾向と対策」に動く体制が少ない。 状況

◆ 「在宅の作業」へスライドできない:

在宅業務としてスライドする事が可能な仕事であるが、条件として熟練工のみ(指導者無しの技能レベル・4.5畳の場所・設備・耐火金庫と各契約の了解)であれば、ゆくゆく**在宅における技能業務**として機能できる。次世代へ引き継げる「在宅技能の伝授の仕組み」の第一歩とできるが、技能伝授をさせてゆく仕組みが無い。 状況

◆ クールジャパンの根幹:

「読み書きそろばん」、主婦はパソコン・デジカメ操作等の操作等、諸外国と比べて**非常に高い仕事能力が日本の“宝”**。

◆ 女性(主婦)の都合:

「子育て」や「親族の介護」により、在宅勤務が必要。しかし在宅発注できる仕事量が不足している。また、「扶養控除の規制」から外されたくない事を希望する主婦層が「**自ら仕事を制限**」する事が多発。 状況

● i 具体案 “**別案B 養成させる**” クールジャパンの本格的な実現を国と県と民の共同プロジェクトとして実現する。

◆ 仕事場の不足:

「技能者が少ない」「人件費が高価」「その対策を実現する仕組みが無い」為に、仕事の発注量が増えない。ゆえに手作業等の簡易な仕事をこなせる能力を持つ人材が急遽増えたとしても、それを活かせる場所(環境)が不足。働ける能力があるにも関わらず、働こうとしない人口の増大。(高齢者・主婦・身障者)+(若人)力仕事、高度能力仕事は、若人など時給1000円以上の領域を維持し、それ以外の仕事の「需要と供給」のバランスを考慮した「仕事提供の体制」がほとんど成されていない。

◆ 社交場の不足:

「病院の待合室」が**“社交場”**(コミュニケーションの場)と兼ねる事が多発。**“42兆円”** / 年の国民医療費負担の益々の増加に繋がる。冬暖かく、夏涼しい「コミュニケーションの場」が不足。(新しい社交場の設立が、医療費**負担の軽減**に繋がるのに、現実ほとんど出来ていない) 状況

● i 具体案 “**別案D・E 仕事場・社交場の提供(予算の捻出)**” 国と県が主体となり民が技術を伝授する場の創造。● 社交場の自由: 各地域による**自由度**を高める。(保育所の運営 や 医者・看護婦OBによる**健康相談コーナーの設置等**)

◆古文書の価値:

フランススコザビエル氏(室町時代)が日本国内 布教活動のおりに驚いた「日本国民の識字率の高さ」。

日本の各地域の僧侶方が、地域集会のおり、読み書きに興味のある子供たちに寺子屋・手習い所の原型となる教える場の中心となり、識字率が高まる。古文書は各地域における「文明地域の証し」である。

◆各地域の唯一の証拠:

各地域にある「真似ができない記録」。「文明地域」として形成されてきた「その地域独自、唯一の証拠物」となる。

◆“世界遺産に相当(動画)”:

と日本の「古文書の価値」は海外学者方から賞賛されている。しかし各地域に死蔵されている「古文書の価値」に値する対策が、ほとんど為されてはいない。 状況

◆今ある古文書:

は「天災・人災」さまざまな「消滅・廃棄の危機」を乗り越えて今存在する。

各地域におけるさまざまな保存環境において、偶然に、故意に、その存在が継続している。

◆劣化と廃棄:

古文書の中において、経年劣化で開きにくくなった「古文書」は、現在「補修費用が高価」なため、多くが手を付けられない。温湿度管理・空調管理・虫損対策がしっかりとされることないままに劣化し、内容の確認さえされないまま、“ゴミ”として廃棄され続けている古文書が多々ある。

◆地方の“宝”:

廃棄されると、二度とその記録に辿り着け無くなる。廃棄は取り返しがつかない行為。古文書があった存在すら確認ができなくなる。各地域の唯一無二の“宝”である古文書が、相応に大切に扱われていない場合が多い。

◆日本人の仕事:

古文書は、日本の各地域が所有する独自の記録(オリジナル)であり、各地域の地名、氏名など個人情報が多々記載されているため、補修・撮影する作業は日本人が行うべき仕事。機密保持、守秘契約を結びながら日本人が担当すべき内容の仕事。(海外の業者に仕事を担当させるべきではない仕事の内容)

◆郷土の繁栄:

「古文書の救済」は、各地域の子孫への地域特有の歴史の継承、博物館・郷土資料館などの観光資源の強化となる。

各地域の特性の歴史記録であり、地域特性・地産地消の特産物・土壌特性等、失敗と成功事例の再発掘を行う。

記録の見直しは災害対策にも繋がる。しかし積極的な救済が進んでいない地域が多い。 状況

- 予算化: 予算化 450億 が相応に成されれば、地域の「古文書の救済」、それを基盤とした本格的な地域おもしろが可能となる。